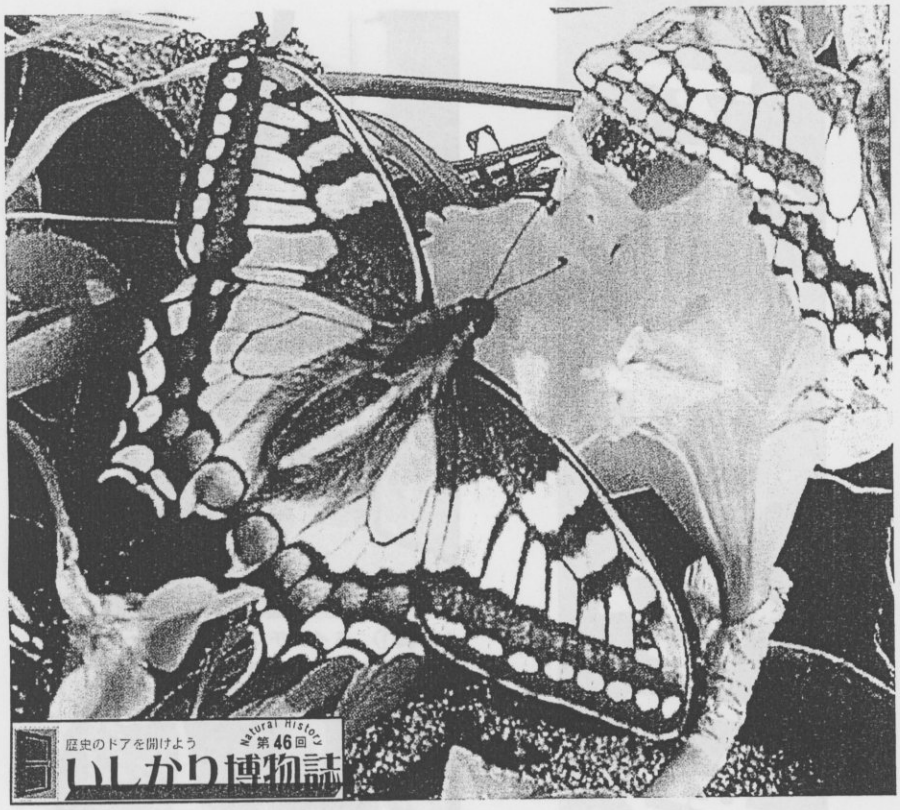


夏来れば、早、冬支度

～キアゲハの長い眠り～

石狩浜に夏の訪れを告げるハマボウフウの白い花。ふと葉に目を移すと、黄緑と黒とのストライプ模様のイモムシが見つかります。これは、ニンジンに代表されるセリ科の植物を食草としているキアゲハの幼虫。

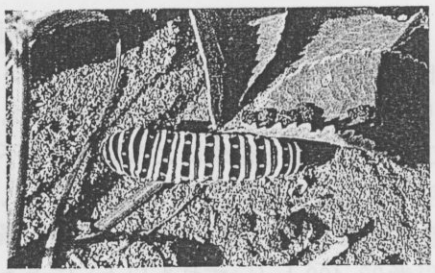
昨年、海浜植物保護センターで飼育していた４頭のキアゲハの幼虫が７月19日にサナギになりました。海水浴シーズン真っ盛りのこの時期、野外では花もたくさん咲いており、じきにチョウになるのだろうと見守っていました。

待つこと３カ月、秋の深まりにもかかわらず、サナギはそのまま。「死んでしまったのでは」という思いが強くなりました。ハチや菌などに寄生されたり、乾燥にさらされるなどして、チョウになれないサナギもたくさんあるからです。

ところが、今年の５月３日、イソスミレの花が咲き始めたころ。なんと、あの４頭のサナギがチョウになっているではありませんか。

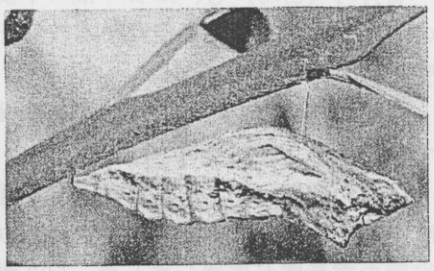
９カ月半、なんと長い眠りだったのでしょう。

さて、ここで虫たちの冬支度について考えてみましょう。



▲幼虫

▼サナギ



▼木の冬支度
（７月にはもう越冬芽が出来始めている）

北国では、自然界の季節変化の主なシグナルは、日の長さや気温、植物の変化です。

夏真っ盛りといえど、すでにこの時期、日の長さは徐々に短くなっています。また、昨年の夏は天候が悪く、気温の低い日が多くありました。キアゲハは、サナギの状態で気温の低さや日の長さが短くなっていくことを感じ、冬の到来を感じ取ってチョウになることをやめてしまったのでしょう。

このように、北国の生き物たちは、夏のころからもう冬への備えを始めるものも少なくないのです。この時期、冬支度を始めている生き物、ほかにも見つかるはずですよ（上写真ー木の冬支度）。

※キアゲハは普通、春と夏の２回、羽化するといわれています。今回の例が一般的かどうかは分かりません。

（石狩浜海浜植物保護センター
内藤華子）